

# 令和5年度登録販売者試験問題

実施日：令和5年8月27日（日）

試験時間：12：00～14：00

内容：医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）  
主な医薬品とその作用（40問）

## ◎ 問題用紙は、指示があるまで開かないでください。

### 【注意事項】

- 1 試験時間中は発言してはいけません。質問など用があるときは、だまって手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
- 2 携帯電話などの通信機器は、必ず電源を切っておいてください。
- 3 不正行為は絶対にしないでください。万一、発見した場合は、失格者として退場していただきます。
- 4 受験票は机に貼ってある受験番号を記載した札の横に置いてください。
- 5 受験票、鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、時計以外のものは机の上に置かないでください。
- 6 試験開始および試験終了は試験監督者の指示に従ってください。
- 7 試験が始まったら、解答用紙に受験番号および受験者氏名を忘れずに記入してから始めてください。受験番号は記入例を参考に右詰めで記入し、空欄は「0」としてください。（受験番号記入例：「1」→「001」、「11」→「011」）
- 8 試験問題は、「医薬品に共通する特性と基本的な知識」12ページ、「主な医薬品とその作用」24ページの合計36ページです。試験開始後、落丁がないことを確認してください。
- 9 各問題の正しい答えは一つしかないので、最も適切と思った答えを一つ選び、解答用紙に記入してください。
- 10 答えは丁寧に、はっきりと記載してください。また、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないよう完全に消してください。答えが判別できない場合は、不正解となるので注意してください。
- 11 問題用紙は、試験時間終了後持ち帰ることができます。
- 12 この試験における医薬品の名称および成分名は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き（令和4年3月作成、令和5年4月一部改訂）」に基づいています。
- 13 試験問題文中の「医薬品医療機器等法」は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の略称です。

[医薬品に共通する特性と基本的な知識]

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売してはならない旨を定めている。
- b 一般用医薬品には、添付文書や製品表示に必要な情報が記載されているので、販売時に専門家は専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの情報提供を行う必要はない。
- c 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者等が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- d 医薬品は、人の疾病の診断、治療もしくは予防に使用されるなど、その有用性が認められたものであり、使用に際して保健衛生上のリスクは伴わない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 2

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至る。
- b 医薬品は、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合がある。
- c ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に Good Clinical Practice (GCP) が制定されている。
- d 医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準として、Good Vigilance Practice (GVP) が制定されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問3

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「特定保健用食品」は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を含むものであり、特定の保健機能を示す有効性や安全性などに関して、国への届出が必要である。
- b 「栄養機能食品」は、国が定めた規格基準に適合したものであれば、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分(ビタミン、ミネラルなど)の健康機能を表示することができる。
- c 「機能性表示食品」は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患した者の健康維持および増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品である。
- d 一般用医薬品の販売時には、健康食品の摂取の有無について確認することは重要で、購入者等の健康に関する意識を尊重しつつも、必要があれば健康食品の摂取についての指導も行うべきである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問4

セルフメディケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 世界保健機関（WHO）によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、中程度の身体の不調は自分で手当てすること」とされている。
- b 急速に少子高齢化が進む中、持続可能な医療制度の構築に向け、医療費の増加やその国民負担の増大を解決し、健康寿命を伸ばすことが日本の大きな課題であり、セルフメディケーションの推進は、その課題を解決する重要な活動のひとつである。
- c 平成29年1月からは、適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、条件を満たした場合にスイッチOTC（Over The Counter）医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入された。
- d セルフメディケーション税制については、令和4年1月の見直しにより、スイッチOTC医薬品以外にも腰痛や肩こり、風邪やアレルギーの諸症状に対応する一般用医薬品が税制の対象となっている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問5

アレルギーに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 外用薬によって、アレルギーが引き起こされることはない。
- b 医薬品の有効成分だけでなく、薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす原因物質となり得る。
- c アレルギーと体質的・遺伝的な要素は関連がないため、近い親族にアレルギー体質の人がいたとしても注意する必要はない。
- d 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合もある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問6

医薬品の不適正な使用と副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の不適正な使用は、概ね使用する人の誤解や認識不足に起因するものと、医薬品を本来の目的以外の意図で使用するものに大別することができる。
- b 人体に直接使用されない医薬品であっても、使用する人の誤解や認識不足によって、使い方や判断を誤り、副作用につながることもある。
- c 医薬品の長期連用により精神的な依存がおこり、使用量が増え、購入するための経済的な負担が大きくなる例が見られる。
- d 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 7

一般用医薬品の適正使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 手軽に入手できる一般用医薬品を使用して、症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けているような場合には、適切な治療の機会を失うことにつながりやすい。
- b 指示どおりの使用量であれば、一般用医薬品を長期連用しても、医薬品を代謝する器官を傷めることはない。
- c 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でないため、身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがある。
- d 適正に使用された場合は安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 8

他の医薬品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の相互作用は、医薬品が吸収、分布、代謝または排泄<sup>せつ</sup>される過程で起こり、医薬品の薬理作用をもたらす部位において起こることはない。
- b 一般用医薬品のかぜ薬（総合感冒薬）やアレルギー用薬では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- c 一般用医薬品の購入者等が医療機関で治療を受けている場合には、一般用医薬品を併用しても問題ないかどうか、治療を行っている医師もしくは歯科医師、または処方された医薬品を調剤する薬剤師に確認する必要がある。
- d 複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が減弱することはあるが、増強することはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 9

食品と医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カフェインを含む総合感冒薬と、コーヒーと一緒に服用しても、カフェインの過剰摂取になることはない。
- b 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。
- c 生薬成分が配合された医薬品とハーブ等の食品を合わせて摂取すると、その医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- d 外用薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 1 0

小児等への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児の血液脳関門は未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすい。
- b 小児では、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長いため、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。
- c 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であっても、乳児は医薬品の影響を受けやすく、また、状態が急変しやすいため、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめるのが望ましい。
- d 医薬品の販売に従事する専門家は、年齢に応じた用法用量が定められていない医薬品の場合には、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるように保護者等に説明すべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 1 1

高齢者への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、おおよその目安として65歳以上を「高齢者」としている。
- b 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化することはない。
- c 高齢者は、生理機能の衰えの度合いに個人差が小さいため、年齢から副作用を生じるリスクがどの程度増大しているか判断することができる。
- d 高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正



問 1 2

妊婦または妊娠していると思われる女性および母乳を与える女性（授乳婦）への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することになる場合がある。
- b 多くの一般用医薬品は、妊婦が使用した場合における胎児への安全性に関する評価は困難とされている。
- c 便秘薬には、配合成分やその用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- d ビタミンAは、胎児にとって非常に重要な成分の一つであるため、妊婦に対して特に妊娠初期（妊娠3か月以内）のビタミンA含有製剤の過剰摂取には留意する必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 1 3

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）は関与しないと考えられている。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの（効果）であり、不都合なもの（副作用）はない。
- c プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることがある。
- d 医薬品の使用によってプラセボ効果と思われる反応や変化が現れたときには、それを目的として使用の継続が推奨される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 1 4

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の有効成分には、高温や多湿により品質劣化を起こすものはあるが、光（紫外線）による品質劣化を起こすものはない。
- b 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意する必要がある。
- c 品質が承認等された基準に適合しない医薬品、その全部または一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品は販売が禁止されている。
- d 一般用医薬品は、家庭の常備薬として購入されることも多いため、外箱等に表示されている使用期限から十分な余裕をもって販売することが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 1 5

一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の役割として、健康の維持・増進があるが、健康状態の自己検査は含まれない。
- b 科学的・合理的に効果が期待できるものであれば、生活習慣病の治療も一般用医薬品の役割として含まれる。
- c 乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、一般用医薬品で対処可能な範囲は限られる。
- d 一般用医薬品にも、使用すればドーピングに該当する成分を含んだものがあるため、スポーツ競技者から相談があった場合は、専門知識を有する薬剤師などへの確認が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 1 6

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品では、情報提供を受けた当人のみが医薬品を使用するとして、販売時のコミュニケーションを考える。
- b 一般用医薬品の購入者は、使用者の体質や症状等を考慮して製品を事前に調べて選択しているのではなく、宣伝広告や販売価格等に基づき漠然と製品を選択していることがあることにも留意しなければならない。
- c 登録販売者は、生活者のセルフメディケーションに対して、第二类医薬品および第三類医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、支援する姿勢が基本となる。
- d 登録販売者からの情報提供は、説明内容が購入者等にどう理解されたかなどの実情を把握しながら行う必要はなく、専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでよい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 1 7

医薬品の販売等に従事する専門家が、一般用医薬品の購入者から確認しておきたい基本的なポイント（事項）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 何のためにその医薬品を購入しようとしているか（購入者等のニーズ、購入の動機）。
- b その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c その医薬品を使用する人がアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。
- d その医薬品がすぐに使用される状況にあるか（その医薬品によって対処しようとする症状等が現にあるか）。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問18

厚生省（当時）は、悲惨な被害を再び発生させることのないように、その決意を銘記した「誓いの碑」を建立した。この「誓いの碑」の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

「誓いの碑」には、  
 「命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、（ a ）のような（ b ）による悲惨な被害を再び発生させることのないよう（ c ）の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する 千数百名もの感染者を出した『（ d ）』事件 このような事件の発生を反省しこの碑を建立した平成11年8月 厚生省」と刻まれている。

	a	b	c	d
1	O157* <sup>1</sup> 感染	医薬品	医薬品の 安全性・有効性	薬害肝炎
2	O157* <sup>1</sup> 感染	毒物及び劇物	医療の安全	薬害肝炎
3	HIV* <sup>2</sup> 感染	医薬品	医薬品の 安全性・有効性	薬害エイズ
4	HIV* <sup>2</sup> 感染	医薬品	医療の安全	薬害肝炎
5	HIV* <sup>2</sup> 感染	毒物及び劇物	医薬品の 安全性・有効性	薬害エイズ

\*1 O157：腸管出血性大腸菌O157

\*2 HIV：ヒト免疫不全ウイルス

問19

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）およびCJD訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟とは、脳外科手術等に用いられていたウシ原料由来の人工硬膜を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJDは、細菌の一種であるプリオンが原因とされている。
- c 本訴訟では、輸入販売業者および製造業者が被告として提訴されたが、国は提訴されなかった。
- d 本訴訟を一因として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問20

C型肝炎およびC型肝炎訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a C型肝炎訴訟とは、ウイルスに汚染された注射器（注射針や注射筒）が連続使用されたことが原因で、C型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 国および製薬企業を被告として、複数の地裁で提訴されたが、判決は、国および製薬企業が責任を負うべき期間等について判断が分かれていた。
- c C型肝炎ウイルス感染者の早期・一律救済の要請にこたえるべく、2008年1月に議員立法による特別措置法が制定、施行された。
- d 「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて（最終提言）」を受け、医師、薬剤師、法律家、薬害被害者などの委員により構成される医薬品等行政評価・監視委員会が設置された。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

[主な医薬品とその作用]

問 2 1

かぜおよびかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜは様々な症状が組み合わさって現れるため、様々な症状を緩和させるために多くの成分を含有する総合感冒薬を選択することが推奨される。
- b かぜ薬は症状の緩和に加えて、原因となるウイルスの増殖抑制効果も期待できる。
- c 冷気や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因は、かぜの原因とはならない。
- d かぜはウイルス（ライノウイルス、コロナウイルスなど）の感染が原因であり、細菌の感染は原因とはならない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 2 2

かぜ薬（総合感冒薬）の配合成分とその配合目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

	配合成分	配合目的
a	サリチルアミド	<sup>せき</sup> 咳を抑える。
b	グアイフェネシン	<sup>たん</sup> 痰の切れを良くする。
c	チペピジンヒベンズ酸塩	発熱を鎮める。
d	ベラドンナ総アルカロイド	くしゃみや鼻汁を抑える。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、c)    5 (b、d)

問 2 3

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、マオウを含むものの組み合わせはどれか。

- a さいこけいしとう 柴胡桂枝湯
- b ばくもんどうとう 麦門冬湯
- c しょうせいりゅうとう 小青竜湯
- d かつこんとう 葛根湯

1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 2 4

解熱鎮痛薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アセトアミノフェンは、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- b アスピリン<sup>ぜん</sup>喘息は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分では起こらない。
- c 解熱鎮痛薬の服用期間中は、飲酒は避けることとされている。
- d 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を抑える成分が配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 2 5

解熱鎮痛薬に配合される成分の配合目的に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ケイヒは、骨格筋の緊張を鎮める目的で配合される。
- b 水酸化アルミニウムゲルは、解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害の軽減を目的として配合される。
- c メトカルバモールは、中枢神経系を刺激して頭をすっきりさせたり、疲労感・倦怠感<sup>けん</sup>を和らげることなどを目的として配合される。
- d ビタミンB 1は、発熱等によって消耗されやすいビタミンの補給を目的として配合される。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、c)    5 (b、d)



問 2 6

2 5 歳女性が月経痛の症状があるため、次の成分の一般用医薬品の解熱鎮痛薬を購入する目的で店舗を訪れた。

1 錠中：

成分	分量
イソプロピルアンチピリン	7 5 m g
アセトアミノフェン	1 2 5 m g
アリルイソプロピルアセチル尿素	3 0 m g
無水カフェイン	2 5 m g

この解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a イソプロピルアンチピリンは、ピリン系解熱鎮痛成分によって薬疹等のアレルギーを起こしたことのある人は使用しない。
- b 本剤には、血栓予防薬としても用いられる成分が含まれている。
- c アセトアミノフェンは、他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害を起こしやすいため、本剤は空腹を避けて服用する。
- d アリルイソプロピルアセチル尿素は、脳の興奮を抑え、痛覚を鈍くする効果が期待できる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問 2 7

神経質、精神不安、不眠等の症状の改善を目的とした漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a <sup>か み き ひとう</sup> 加味帰脾湯は、体力中等度以上で、精神不安があつて、動悸<sup>き</sup>、不眠、便秘などを伴う高血圧の随伴症状、神経症、更年期神経症、小児夜なき、便秘に適すとされる。
- b <sup>よくかんさん</sup> 抑肝散は、体力中等度をめやすとして、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症<sup>かん</sup>、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。
- c <sup>さんそうにんとう</sup> 酸棗仁湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、精神不安、不眠などがあるものの不眠症、神経症に適すとされる。
- d <sup>さいこ かりゅうこつ ぼれいとう</sup> 柴胡加竜骨牡蛎湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 2 8

眠気防止薬の有効成分として配合されるカフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収抑制作用があり、尿量の増加をもたらす。
- b 胃液分泌抑制作用があるため、胃酸過多の人でも服用できる。
- c 作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質がある。
- d 乳汁中に移行しないことから、授乳中の女性でも摂取量を気にせず摂取できる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 2 9

乗物酔い防止薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジプロフィリンは、不安や緊張などの心理的な要因を和らげることにより乗物酔いの発現を抑える。
- b メクリジン塩酸塩は、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげる。
- c スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、肝臓で速やかに代謝されるため、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間は短い。
- d ジフェンドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 3 0

小児の瘡を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴオウ、ジャコウは、鎮静、健胃、強壯などの作用を期待して、小児の瘡を適応症とする生薬製剤に用いられる。
- b 身体的な問題がなく生じる夜泣き、ひきつけ、瘡の虫等の症状については、症状が治まるまでは保護者側の安眠等を図ることを優先して小児鎮静薬を使用することは適すとされている。
- c 小児の瘡を適応症とする漢方処方製剤のうち、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合は、生後1か月の乳児にも使用できる。
- d 小建中湯を乳幼児に使用する場合は、体格の個人差から体重当たりのグリチルリチン酸の摂取量が多くなることもあるので、特に留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問3 1

呼吸器官に作用する薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物は、延髄の咳嗽中枢に作用する麻薬性鎮咳成分である。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系を抑制して気管支を拡張させる作用がある。
- c キサンチン系成分は、心臓刺激作用も示すことから、副作用として動悸が現れることがある。
- d クロルフェニラミンマレイン酸塩は、気道粘膜からの粘液分泌を促進し、痰を出しやすくする。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問3 2

咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤として、次の記述にあてはまる最も適切なものはどれか。

体力中程度をめやすとして、気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声、のどのつかえ感に適すとされる。

- 1 麻杏甘石湯
- 2 響声破笛丸
- 3 半夏厚朴湯
- 4 五虎湯
- 5 甘草湯

問 3 3

胃に作用する薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スクラルファートは、マグネシウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- b ピレンゼピン塩酸塩は、血栓のある人、血栓を起こすおそれのある人では、生じた血栓が分解されにくくなることが考えられる。
- c ジメチルポリシロキサン（ジメチコン）は、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合されている場合がある。
- d ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問34

整腸薬または止瀉薬<sup>しや</sup>およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 腸内殺菌成分の入った止瀉薬<sup>しや</sup>は、下痢の予防で服用したり、症状が治まったのに漫然と服用したりすると、腸内細菌のバランスを崩し、腸内環境を悪化させることがある。
- b トリメブチンマレイン酸塩は、消化管の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用があるが、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがある。
- c ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬<sup>しや</sup>は、効き目が強すぎて便秘が現れることがあり、まれに重篤な副作用としてイレウス様症状を生じることがある。
- d ベルベリン塩化物は、海外において長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があるため、1週間以上継続して使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問35

瀉下薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を下げることにより、糞便中の水分量を増やす作用がある。
- b センノシドが配合された瀉下薬については、妊婦または妊娠していると思われる女性では、使用を避けるべきである。
- c ビサコジルを含む腸溶性製剤は、胃内でビサコジルが溶け出すおそれがあるため、服用後1時間以内は牛乳の摂取を避けることとされている。
- d ジオクチルソジウムスルホサクシネートは、糞便中の水分量を増して柔らかくすることによる瀉下作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問36

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中程度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、食欲不振、腹部膨満、腸内異常醗酵、痔などの症状の緩和に適すとされる。

- 1 六君子湯
- 2 大黄牡丹皮湯
- 3 人参湯
- 4 麻子仁丸
- 5 桂枝加芍薬湯

問37

胃腸鎮痛鎮痙薬<sup>けい</sup>の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a チキジウム臭化物には、口渇、便秘、排尿困難等の副作用が現れることがある。
- b ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- c ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなる（頻脈）おそれがある。
- d パパベリン塩酸塩は、抗コリン成分と異なり、眼圧を上昇させる作用はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問38

一般用医薬品の強心薬に配合される生薬成分のうち、鎮静作用を目的として配合されるものの組み合わせはどれか。

- a ロクジョウ
- b シンジュ
- c センソ
- d ジンコウ

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)



問39

一般用医薬品の<sup>りょうけいじゅつかんとう</sup>苓桂朮甘湯に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 体力中等度以下で、めまい、ふらつきがあり、ときにのぼせや動悸<sup>き</sup>があるものの立ちくらみ、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸<sup>き</sup>、息切れ、神経症、神経過敏に適すとされる。
- b 利尿作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促す。
- c 強心作用が期待される生薬を含んでいる。
- d 構成生薬としてカンゾウを含むため、高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人では、偽アルドステロン症を生じやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 4 0

次の成分の一般用医薬品の高コレステロール改善薬を購入しようとする者への登録販売者の説明について、適切なものの組み合わせはどれか。

6 カプセル中：

成分	分量
パンテチン	3 7 5 m g
大豆油不けん化物	6 0 0 m g
トコフェロール酢酸エステル	1 0 0 m g

- a 腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがある成分が含まれています。
- b 末梢血管における血行を促進する成分が含まれています。
- c 尿が黄色くなる成分が含まれていますが心配ありません。
- d 1年くらい服用を続けても症状・コレステロール値に改善が見られない時には、服用を中止し、医療機関を受診してください。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 4 1

貧血用薬（鉄製剤）およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分である銅が配合されている場合がある。
- b 消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として、ビタミンCが配合されていることがある。
- c 服用後、便が黒くなる場合には、重大な副作用の可能性があるので直ちに服用を中止する。
- d 貧血の症状がみられる以前から予防的に使用することが適当である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問42

次の成分を含む一般用医薬品の外用痔疾用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

坐剤1個（1.75g）中：

成分	分量
リドカイン	60 mg
グリチルレチン酸	30 mg
アラントイン	20 mg
トコフェロール酢酸エステル	50 mg

- a リドカインは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- b グリチルレチン酸は、比較的緩和な抗炎症作用を示す成分である。
- c アラントインは、痛みや痒み<sup>かゆ</sup>を和らげることを目的として配合される局所麻酔成分である。
- d トコフェロール酢酸エステルは、出血を抑えることを目的として配合される止血成分である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問43

婦人薬として用いられる漢方処方製剤のうち、カンゾウを含むものの組み合わせはどれか。

- a 当帰芍薬散<sup>とうきしゃくやくさん</sup>
- b 加味逍遙散<sup>かみしょうようさん</sup>
- c 桂枝茯苓丸<sup>けいしぶくりょうがん</sup>
- d 桃核承気湯<sup>とうかくじょうきとう</sup>

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 4 4

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身、しもやけ、しみ、<sup>しん</sup>湿疹・皮膚炎、にきびに適すとされる。

- 1 <sup>けいし ぶくりょうがん</sup> 桂枝茯苓丸
- 2 <sup>うんせいいん</sup> 温清飲
- 3 <sup>とうかくじょうきとう</sup> 桃核承気湯
- 4 <sup>とうき しゃくやくさん</sup> 当帰芍薬散
- 5 <sup>しもつとう</sup> 四物湯

問 4 5

鼻炎用内服薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a メチルエフェドリン塩酸塩は、依存性がある抗コリン成分であり、長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- b ロラタジンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- c トラネキサム酸は、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として用いられる。
- d クレマスチンフマル酸塩が配合された内服薬を服用した後は、乗物または機械類の運転操作を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問46

鼻炎用点鼻薬の配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩は、鼻粘膜を通っている血管を拡張させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
- b ケトチフェンフマル酸塩は、ヒスタミンの働きを抑えることにより、くしゃみや鼻汁等の症状を緩和する。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎<sup>くう</sup>に対しても有効である。
- d リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛み<sup>かゆ</sup>や痒みを抑えることを目的として配合される場合がある。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問47

眼科用薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 人工涙液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
- b プラノプロフェンは、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- c ホウ酸は、角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- d サルファ剤は、細菌および真菌の感染に対する効果が期待できるが、ウイルスの感染に対する効果はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問48

30歳女性が、目の充血があるため、次の成分の一般用医薬品の一般点眼薬を購入する目的で店舗を訪れた。

100mL中：

成分	分量
テトラヒドロゾリン塩酸塩	0.05 g
グリチルリチン酸二カリウム	0.25 g
クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.03 g
パンテノール	0.1 g
アスパラギン酸カリウム	1.0 g

(添加物として、ベンザルコニウム塩化物、pH調整剤等を含む。)

この点眼薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a この医薬品には、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的としてテトラヒドロゾリン塩酸塩が配合されている。
- b この医薬品に配合されるアスパラギン酸カリウムは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合されているアミノ酸成分である。
- c この医薬品を点眼する際には、容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れないようにする。
- d この医薬品は、ソフトコンタクトレンズを装着したまま点眼することができる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問49

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ベンザルコニウム塩化物は、石けんと混合により殺菌消毒効果が高まる。
- b ヨードチンキは、ヨウ素をポリビニルピロリドン（PVP）に結合させて水溶性とし、ヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されている。
- c クロルヘキシジン塩酸塩は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- d 消毒用エタノールは、皮膚への刺激性が弱いため、脱脂綿やガーゼに浸して患部に貼付することができる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問50

外皮用薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 分子内にステロイド骨格を持たない非ステロイド性抗炎症成分として、デキサメタゾンがある。
- b ケトプロフェンを主薬とする外皮用薬では、紫外線により、使用中または使用後しばらくしてから重篤な光線過敏症が現れることがある。
- c フェルビナクを主薬とする外皮用薬は、皮膚感染症に対して効果がなく、痛みや腫れを鎮めることでかえって皮膚感染が自覚されにくくなるおそれがある。
- d インドメタシンを主薬とする外皮用薬は、妊婦または妊娠していると思われる女性にも使用を推奨できる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問5 1

外皮用薬およびその配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 温感刺激成分が配合された外皮用薬は、打撲や捻挫などの急性の腫れや熱感を伴う症状に対して適している。
- b ジフェンヒドラミンは、適用部位でプロスタグランジンの産生を抑えることで、湿疹<sup>しん</sup>、皮膚炎、かぶれ、あせも等の皮膚症状の緩和を目的として使用される。
- c ヘパリン類似物質は、患部局所の血行を促す目的で用いられるほか、抗炎症作用や保湿作用も期待される。
- d アンモニアは、皮下の知覚神経に麻痺<sup>ひ</sup>を起こさせる成分として、主に虫さされによる痒み<sup>かゆ</sup>に用いられる。

1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問5 2

毛髪用薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 効能・効果に「壮年性脱毛症」や「円形脱毛症」等の疾患名を掲げた製品の中には、医薬部外品として販売されているものもある。
- b カシュウは、タデ科のツルドクダミの塊根を基原とする生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- c エストラジオール安息香酸エステルは、女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して配合されている場合がある。
- d ヒノキチオールは、ヒノキ科のタイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正



問53

歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分とその配合目的としての作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	配合成分	配合目的としての作用
a	ジブカイン塩酸塩	齲蝕（むし歯）で露出した歯髄の知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める。
b	カルバゾクロム	歯肉炎、歯周炎（歯槽膿漏）の症状である口臭を抑える。
c	オイゲノール	齲蝕（むし歯）部分での細菌の繁殖を抑える。
d	銅クロロフィリンナトリウム	炎症を起こした歯周組織の修復を促す。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問54

次の記述は、登録販売者と禁煙補助剤（咀嚼<sup>そしゃく</sup>剤）の購入者との会話である。購入者からの相談に対する登録販売者の説明について、適切なものの組み合わせはどれか。

a	購入者	ニコチン離脱症状とはどのような症状ですか。
	登録販売者	血中のニコチン濃度の低下によって、イライラしたり、集中できなくなったり、落ち着かない等の症状がでます。
b	購入者	ニコチン置換療法とはどのようなものですか。
	登録販売者	喫煙を継続しながら徐々に本剤に変更していく方法です。離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、最終的にニコチン摂取をゼロにします。
c	購入者	本剤を使用する場合、食べ物や飲み物で気をつけることはありますか。
	登録販売者	口の中が酸性になるとニコチンの吸収が増加するので、口腔内を酸性にするコーヒーや炭酸飲料などを飲んだ後はしばらく使用を避ける必要があります。
d	購入者	高血圧の薬を飲んでいるのですが、本剤を使用しても大丈夫ですか。
	登録販売者	使用している治療薬の効果に影響を生じたり、症状を悪化させる可能性があるため、使用の適否については主治医と相談してください。

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 5 5

ビタミン成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB 6は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンB 2は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、腸管運動を促進する作用がある。
- c ビタミンDの欠乏症として、高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。
- d ビタミンAは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問 5 6

滋養強壮保健薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コンドロイチン硫酸は、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合される場合がある。
- b カルシウムは、骨や歯の形成に必要な栄養素であり、筋肉の収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。
- c アスパラギン酸ナトリウムは、アスパラギン酸のビタミンCの吸収を助ける等の作用を期待して、滋養強壮保健薬やかぜ薬に配合されている場合がある。
- d ナイアシンは、下垂体や副腎系に作用してホルモンの分泌の調節に関与するため、ときに経血量が多くなる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 5 7

一般用医薬品の防風通聖散ぼうふうつうしょうさんに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 体力が充実して、脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされる。
- b 構成生薬としてマオウは含まれない。
- c 便秘に用いられる場合には、漫然と長期の使用は避け、1週間くらい使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止して専門家に相談するなどの対応が必要である。
- d 肥満症または肥胖症はんに用いられる場合、医薬品の販売等に従事する専門家においては、生活習慣の改善が重要であることを説明する等、正しい理解を促すことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 5 8

感染症の防止および消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 滅菌は、物質中のすべての微生物を殺滅または除去することである。
- b 消毒薬の効果は、微生物の種類による影響を受けない。
- c クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは、皮膚刺激性が弱く、手指・皮膚の消毒に適している。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問59

殺虫剤・忌避剤およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a シラミの防除には、フェノトリンが配合されたシャンプーが有効である。
- b ゴキブリの卵は、殺虫剤の成分が浸透しやすい殻で覆われているため、<sup>くひん</sup>燻蒸処理を行えば駆除できる。
- c イエダニは、ネズミを宿主として生息場所を広げていくため、まず、宿主動物であるネズミを駆除することが重要である。
- d イカリジンは、年齢による使用制限がない成分で、蚊やマダニに対して殺虫効果を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問60

尿糖・尿タンパク検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 尿タンパク検査の場合、中間尿ではなく出始めの尿を採取して検査することが望ましい。
- c 尿タンパク検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。
- d 尿糖検査の結果に異常がある場合、その要因は、腎炎やネフローゼ、尿路感染症、尿路結石等がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正